



第41期日中学生会議

結実 ～架け橋となる存在へ～

目次

- 1.日中学生会議とは
- 2.日本側実行委員紹介
- 3.分科会紹介
- 4.日中学生会議のスケジュール
- 5.開催地
- 6.日中学生会議の魅力
- 7.同窓会ネットワーク
- 8.募集要項
- 9.後援・助成
- 10.お問い合わせ・SNS
- 11.コロナ対策ガイドライン

日中学生会議とは

日中学生会議は、外務省・(社)日本外交協会共催の全国学生国際問題討論会「ザ・フォーラム」の入選者により発案されました。日中関係に関心のある日本人学生有志が1986年に実行委員会を設立したのが始まりです。アカデミックな会議を通して日中学生の相互理解を深めることを目的に、毎年8月に3週間本会議（合宿）を行います。

「日中友好へ、学生の挑戦。」という理念の下、中国と日本で交互に開催されます。2021年は史上初のオンライン開催でした。2022年は「『結実』～架け橋となる存在へ～」という41期独自の理念の下、オンラインとオフラインを融合させながら日本で開催する予定です。具体的には議論・文化交流会・観光を行います。

① 議論

1か月の事前準備を経て中国側学生と「分科会」に分かれて自分たちが設定した議題について相互理解を図り、8月の本会議合宿にプレゼン形式で議論の成果を報告します。

② 文化交流会

対面の場合、出し物を披露してお互いの文化を共有します。オンラインの場合、クイズ大会や朝・夜の1対1の中国学生との電話を通して相互理解を目指します。

③ 観光

対面の場合各都市で1日以上観光をし、中国学生に日本を案内します。オンラインの場合、オンライン旅行プログラムを行います。

日本側実行委員紹介



役職：実行委員長兼広報
 名前：今井美佑 (Miyu Imai)
 ニックネーム：いまみゆ
 所属：上海復旦大学経営学部3年
 使用言語：日本語・中国語

役職：財務
 名前：山下紗季 (Saki Yamashita)
 ニックネーム：さきねえ
 所属：神奈川大学外国語学部3年
 使用言語：日本語・中国語



役職：総務
 名前：徳永潤 (Jun Tokunaga)
 ニックネーム：とくにい
 所属：近畿大学国際学部3年
 使用言語：日本語・中国語・英語

役職：渉外
 名前：勝隆一 (Ryuichi Katu)
 ニックネーム：かつつん
 所属：慶應義塾大学法学部3年
 使用言語：日本語・中国語・英語



役職：広報
 名前：曹可臻 (Yuki So)
 ニックネーム：ゆき
 所属：大阪教育大学教育学部1年
 使用言語：日本語・中国語・英語

役職：広報
 名前：上野祐香 (Yuka Ueno)
 ニックネーム：ゆう
 所属：青山学院大学文学部3年
 使用言語：日本語・英語



分科会紹介

IT分科会

環境分科会

サブカルチャー
分科会メンタルヘルス
分科会

教育分科会

各分科会10名
その中から議題別で
5人1組の2グループに分かれる

IT分科会

テーマ1.
デジタル化の比較から見る
日中両国の将来

テーマ2.
ITが国際コミュニケーションに
与える影響

IT分科会

1. デジタル化の比較から見る日中両国の将来

新型コロナウイルスにより、日本はデジタル化において遅れを取っていることが明らかになった。マッキンゼーの調査によると、これらの大きな原因は人間や組織である。日中比較によってそれぞれの共通点・相違点を議論し、今後の両国のデジタル化のあり方を模索する。ライブコマースといった身近なものから遠隔医療といった社会的な話題まで、参加者それぞれが興味のある分野を1つずつ比較し、将来の発展を予測する。

2. ITが国際コミュニケーションに与える影響

ソーシャルネットワークアプリは、多様な文化的背景を持つ人々を結び付けた。パンデミックの間、多くの国際的な会議は中断される代わりにオンラインになった。さらに翻訳アプリケーションはNLPテクノロジーの採用によりますます正確になり、将来的には人間の翻訳者がいなくても、自国語で相互に通信できるようになるかもしれない。IT技術の影響を受ける国際コミュニケーションのさまざまな側面と、IT技術が将来どのように国際コミュニケーションを促進するかについて話し合う。

環境分科会

1. 日本と中国が共通して直面する環境問題について

経済発展が重視されるグローバル化の時代において、環境問題を全面的に理解した上で、経済発展と環境保全のバランスをどう保てば良いのか、学生として環境問題に対してどのような取り組みができるのかを掘り下げる。

2. 大学の教育による環境問題の改善

教育において大きな責任を負う大学が、どうすれば教育により環境問題の改善に貢献できるのか検討する。さらに、日中両国の取り組みの中で互いに学び合うべき部分を見出していく。

最終的には、世界が一丸となって協力を深める環境問題において、日中両国がどのように取り組むべきかを議論していく。

分科会紹介

サブカルチャー分科会

1. サブカルイベントにおけるコロナによる影響

新型コロナウイルスにより、大衆の行動範囲がかなり制限された。その中で大きく打撃を受けた業界の一つとして、イベント運営があげられる。日本、中国ともにここ数年コンサート、フェスティバル、同人誌即売会、握手会、期間限定ショップなど、大型なイベントができなくなっている。そんな中で、この業界がどのようにコロナ時代を乗り越えようとしているのか、そして今後のマーケティング方針などを見ていく。

2. 海賊版について

海賊版は永遠に消えてこなかった著作権違反である。ここ数年で、日本では漫画村撲滅や中国ではbilibiliやyoukuの企業努力により、動画を有料化し、しっかりと放送権利を取得している。これはかなりの進歩であるが、海賊版の問題はまだ尽きない。そこで、海賊版が今まで与えてきた影響、どのようなシステムで蔓延するのか、そしてこれからの対処策や視聴者側の意識について議論をしていく。

メンタルヘルス分科会

1. 青少年が抱えるメンタル問題の原因と解決法を探る

現代社会では、メンタルに問題を抱える青少年が少なくない。青少年のメンタルヘルス問題は多くの人にとって身近なものとなっている。青少年がメンタルに不調をきたす最大の原因は何なのだろうか。本分科会では、この方面で議論を進める。また、メンタル問題は誤った方向に発展すれば、より重大な問題を引き起こす。青少年のメンタル問題を考えるうえでは、家族や周囲の理解が重要であり、メンタル問題に関する正しい知識を身に着けることが大変重要だ。本分科会では、青少年のメンタル問題を正しく理解するための方法について、社会システム、学校教育、家庭教育といった多方面からのアプローチにより議論を深める。

2. メンタルヘルスへの偏見問題

現代日本では30人に一人がメンタルに何らかの不調をきたしている。所謂多くの人が精神障害を抱えているということだ。全ての人が精神を患う可能性があり、私たちの身の回りには程度の差こそあれ、多くの精神病患者がいる。私たちはこの“精神病”という言葉にどのようなイメージをもっているだろうか。そこには本来の意味を越えた意味が後付けされ、確かな偏見として存在する。言語化するなら、“恐怖”、“未知”、“危険”などだろうか。これらの偏見イメージが、メンタルヘルス問題全体の足枷となっていることを指摘したい。本分科会では、いかにしてこのイメージを払拭するかを主に議論する。また、議論の補助材料として、メンタルヘルスに関連する日中の医療システムや社会支援体制をまとめ比較する。

教育分科会

1. 日中の教育システムについて

中国と日本の教育を比較しながら、どのように社会や人に影響を与えているか調査し、また、どのような教育のあり方が、日中友好また世界平和に貢献できるのかを議論していく。

具体的には、ジェンダー教育、持続可能な社会（SDGs）を目指す教育、オンライン教育などを考えている。

2. 言語教育について

英語は世界共通言語であり、誰しものが一度は触れる身近な言語である。それにもかかわらず、コミュニケーションをとれる人ととれない人に偏りがある。本テーマでは、なぜこのような問題が発生するのか、そして良い解決策はないかを考える。

また第二外国語にもフォーカスしたい。そもそも第二外国語は必要なのか。また必要なのだとしたらどの言語教育するべきで、なぜその言語が必要なのか。そしてどのような方法で教育していくのが適切なのか。日本と中国で差異はあるのかを議論し、国際交流を促進していきたい。

日中学生会議のスケジュール

顔合わせ
MTG
6/5(日)

オンライン

自己紹介/アイスブレイク/
日中学生会議・分科会紹介

キックオフ
イベント
6/12(日)

オンライン

使用言語でグループ分けしチームごと
に議論/発表/OBOG交流

分科会決め
6/26(日)

対面又はオンライン

中国委員含めた実行委員との交流。
この後、分科会の希望を提出する。

中間合宿
7/2(土)~7/3(日)

対面

分科会議論の準備

大阪⇒静岡⇒東京

本会議合宿
8/7(日)~8/26(金)

日中学生との共同生活・議論を通して相互理
解を深める。本会議終了後、各分科会で報
告書の作成をする。

報告会
10月某日

会議の集大成として会議内容をプレゼン
形式で発表する。

オンライン開催方法：Zoom Meetingsとvoov meetingの併用

開催地

①大阪

中国学生に関西国際空港から来てもらい、大阪市内のユースホステルで一緒に共同合宿が始まります。平和学習として淡路・阪神大震災のことを中国学生と共に学び、神戸の中華街に行く予定です。またグループに分かれて大阪市内・大阪周辺での観光時間も予定しています。

②静岡

中国学生に一度は見てもらいたい富士山！大阪の賑やかな雰囲気から一転して、3週間の真ん中で落ち着いた雰囲気での議論していただきます。部活動やサークルの合宿地としてさまざまな施設が揃っているので、議論のあとのアクティビティも予定しています。

③東京

大学や博物館、記念館など、分科会ごとに生の情報を仕入れるためのフィールドワークは東京が最適です。日中の学生で実際に現場に行くことで得られる知識を得て、議論のブラッシュアップを行います。観光場所も多いため会議後のリフレッシュや本会議ラストの思い出作りも行います。

日中学生会議の魅力

日中学生会議は学生の皆様が挑戦できる場を整えています。

「なぜ日中学生会議での活動が成長に繋がるのか？」

第41回実行委員会からご紹介します！

①質の高い議論による語学力やアウトプット能力の向上

8月の約1か月間、分科会に基づいた学術的テーマに関して日中学生5~6人のチームで議論する。英語・中国語・日本語を駆使して自分の意見を積極的に発信することが求められるため、速いスピードで語学力やアウトプット能力を向上させることができる。

②多様な分野の第一線で活躍される方の意見に直接触れる

分科会ごとにフィールドワークを行う。日中学生会議の一員として専門家の方々にアポイントメントを取り、実際にお話をすることで深い学びを得る。また41期参加者全体で県知事など著名な方を訪問する予定であり、普段では会えない方々との交流により成長する。

分科会の成果発表の際には顧問の大学教授やOBOGからフィードバックを得ることができ、視座が高まる。

③共通の関心を持つ仲間同士で切磋琢磨する

日本全土、中国全土、また世界中から共通の関心を持つ学生が集まる。強い思いを持つ仲間同士だからこそお互いの意見を尊重し、本音で対話できる。日中学生会議はこのような強い思いを持った学生の運営により41年間、あらゆる危機を乗り越えて継続されてきた。OBOG方の協力を得るだけでなく、実行委員も参加者の挑戦をサポートするための体制を整えている。

日中学生会議の魅力

④中国を通して世界を見る

私たちはそれぞれ色眼鏡をかけて物事を見ており、世界情勢に対する意見も異なる。実際に中国で生活する学生と本音の対話を通し、自分になかった価値観・考え方を得て、中国の本質に迫る。今まで自分の中になかった新たな視点を取り入れる姿勢が求められる。

⑤リーダーシップを学ぶ

日中の多様なバックグラウンドを持つ分科会をまとめるリーダーを立候補で選ぶ。参加者5-6名の1テーマごとに1人、リーダーとしての機会がある。全部で10テーマある。委員は運営と分科会を繋げる役目を果たし、リーダーのサポートを行う。今年は史上初の対面とオンラインの融合開催である。参加者から運営に携わる「日中向上委員会」を定期的に開催する。

十人十色の価値観・バックグラウンドを持つ仲間の中で、「どうすれば皆が満足するか?」「組織として何が正しいのか?」という問いから得る経験は学生でしか得られない学びとなる。

次期実行委員の選考は参加者から優先的に行う。半年の参加後、より広い視点から組織運営を経験することに直結する。

⑥国際交流を学ぶ

多様な価値観・バックグラウンドを持つ人とどのような配慮を持って議論すべきかを学ぶ。相手国をマクロ視点からミクロ視点の両方からとらえる目を育む。

⑦将来の目標を作る

分科会の議論だけでなく全体での交流会や観光、講演会、OBOGとの対話など、多様なプログラムが用意されている。多様な価値観を持つ人との対話や経験を通し、興味や目標を追求する。

日本側参加者出身大学 (50音順)

青山学院大学	津田塾大学
大阪大学	東京大学
お茶の水女子大学	東京音楽大学
関西学院大学	東京外国語大学
京都大学	同志社大学
国際教養大学	日本大学
北海道大学	一橋大学
慶応義塾大学	広島市立大学
埼玉大学	明治学院大学
上智大学	明治大学
聖心女子大学	立教大学
筑波大学	立命館大学
中央大学	早稲田大学 他

同窓会ネットワーク

「日中学生会議OBOG会」というfacebookグループがあり、本会議開催後希望者に参加していただきます。毎年数回OBOGとの交流会を行っております。また顧問である早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授の天児慧先生が毎週定例の勉強会を開催しており、そのグループに参加することも可能になります。

募集要項

参加費：10万円 ※新型コロナウイルスの状況次第で変更の可能性

1か月の移動費・宿泊代・活動費を含めた金額である。財団からの賛助により、参加費は大幅に軽減されている。開催形態が変更された場合参加費も変更する。活動後、余った活動費は返金する。

開催方法変更の可能性：

- (1) 日本側、中国側共に日本にて対面開催
 - (2) 日本側のみ対面で、中国側はオンライン参加
 - (3) 日本側、中国側共にオンライン開催
- (1) に関して5月頃に判断、(2) か (3) に関して7月頃に判断。

選考概要：

- 一次選考：2022年4月1日(金)～5月7日(日) 書類選考
- 一時結果：2022年5月12日前後
- 二次選考：2022年5月15日(日)～5月21日(土)
グループディスカッション、面接（日本語）
- 合格発表：2022年5月26日前後

募集人数：20人（日本側）

使用言語：日本語・中国語・英語

全体では日本語・中国語を使用し、個人同士の会話や分科会ごとの議論で英語を使う機会がある。上記の言語から2か国語以上話せることが望ましいが、日本語のみ話す学生も参加可能である。

応募資格：以下2つを満たすこと

1. 2022年4月時点で大学生、大学院生、短期大学生、専門学生(留学生も含む)、高校生等であること。（日本滞在中の外国人留学生も含む。）
2. 本紙5pの『日中学生会議のスケジュール』に全て参加できること。

委員長からの挨拶

国際情勢を取り巻く環境や感染症の拡大は、数年前には考えられなかったほど世界を大きく変えました。そんな状況下でも学生である私たちにできる事は、どんな形であれ交流を絶やさないことです。

日中学生会議では、参加者の皆さんに本音で語り合い、素直な疑問をぶつけることができる交流の場を提供します。3週間の議論と共同生活を通じて、相手を深く「理解」し、この相手を「理解」する過程で得た新しい気づきや学びが、言語や文化の壁を越えてこれから長く続くより良い日中関係の未来への糸口になると信じています。

そして、私たち41期の理念「『結実』～架け橋となる存在へ～」のもと、参加者全員がこれから先の日中関係を担う懸け橋として活躍できるように、また皆さんにとって人生のターニングポイントになるような出会いがあればと願っています！

日中国交正常化50周年であるこの2022年の夏に、異なるバックグラウンドを持つ日中の学生たちが、日中学生会議という同じ場所であ会い、交流することに大きな価値があると思います。41期実行委員一同、皆さんの参加を楽しみにしています。

日本側実行委員長 今井美佑

致力于中日友好交流的朋友们：

大家好！

我是第41届中日学生会议的中方委员长。寒冷的冬天即将过去，温暖的春天就要来临，我们的会议招募即将开始~

中日学生会议是于1986年创立的非赢利性、非政治性、非宗教性、中立的学生团体。我们希望通过中日青年学生的交流，不仅促进参加者的自我实现与成长，而且增强中日双方的理解，深化中日关系。过往前辈们的努力和坚持成为我们勇往直前的动力，我们将秉持不忘初心、守正创新的理念，为大家带来更贴心的会议体验！最后预祝此次会议圆满成功！

中国側実行委員長 孫逸宸

在日中学生会议这个交流平台上，没有偏见，没有歧视，没有孤立，在这里，我们会以青年人的视角，青年人的方式，聚焦环境、心理、教育、亚文化和IT这五大领域，就日中两国的异同点、现状、存在的问题进行研究讨论，并提出切实可行的解决方案。第41届日中学生会议将在日本举办，在交流的同时还可以亲身体验日本各地的风土人情，加深对日本的认识。让我们一起去做好日中友好关系的维护者、日中友好交流的促进者以及日中友好合作的推动者吧，日中学生会议期待大家的加入。

中国側実行委員長 王湘娆

後援・助成 (助成のみ変更可能性あり)

敬称略・順不同

後援：外務省、文部科学省

中華人民共和国駐日本国大使館教育処

公益社団法人日本中国友好協会

助成：(公財) 電通育英会

(公財) 東華教育文化交流財団

お問い合わせ・SNS

第41回実行委員メールアドレス jcscfortyone@gmail.com

webサイト <https://jcsc-japan.org/>

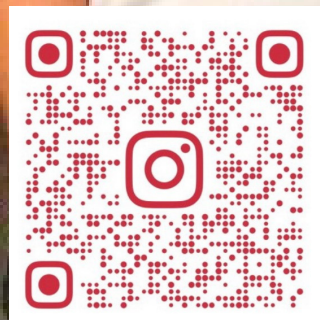
Twitter DM @jcsc_japan https://twitter.com/jcsc_japan

Instagram DM @jcsc_japan https://instagram.com/jcsc_japan

Facebook Messenger @jcsc.jpn

<https://www.facebook.com/jcsc.jpn/>

pando <https://pando.life/jcsc41>



コロナ対策ガイドライン

第41回日中学生会議（本会議）の開催形態は以下3つのうちいずれかを予定している。

- (1) 日本側、中国側共に日本にて対面開催
 - (2) 日本側のみ対面で、中国側はオンライン参加
 - (3) 日本側、中国側共にオンライン開催
- (1)の可否は本年5月頃に判断することとする。

日本国内で緊急事態宣言が発出されている場合。もしくは、会議開催都市（東京、大阪、静岡）のいずれかでまん延防止等重点措置が実施されている場合は、渡航中止と判断する。右条件を満たさない場合は、最新の日中間渡航状況及び日中国内の感染状況を踏まえて総合的に判断することとする。

(1) (2)の形態で対面にて開催する場合、下記の通り新型コロナウイルス感染予防対策を実施する。なお、本会議前に中間合宿in東京（7月2日、3日）と直前合宿in大阪（8月6日、7日）を予定しているが、いずれにおいても本会議期間中と同様の対策を実施する。

<主催者としての対策>

- ・参加者、実行委員ともに、会議開催3日前にPCR検査を受診して陰性証明書を取得することを会議参加の必須条件とする。陰性証明書の提示が出来ない場合は、会議への参加を認めない。
 - ・ワクチン摂取を少なくとも2回完了した状態で会議に参加することを参加者に強く推奨する。
- 右については参加者決定後（4月中を予定）に繰り返し呼びかけを行う。
- ・会議期間中はマスクの着用を参加者に義務付ける。
 - ・会議室の出入り口にアルコール消毒液を設置し、手指の消毒及び手洗いを参加者に呼びかける。
 - ・毎日参加者及び実行委員の検温並びに体調確認を行う。
 - ・発熱等の風邪症状が見られる参加者の会議への参加は認めない。また、新型コロナウイルス感染の疑いがある参加者が現れた場合は、開催地域の新型コロナ受診センター（保健所）に相談する。
 - ・万一会議期間中に参加者から感染者が出た場合、対面での会議は即刻中止とする。参加者への周知、濃厚接触者の特定、保健所及び使用施設への連絡等必要な対策を速やかに実施する。
 - ・3つの密（密閉・密集・密接）を避けるため、会議室は十分な広さを確保し、適切な距離を設けて座席を配置する。分科会毎に会議室を分けるなどして少人数（10名前後）での活動に努める。また、定期的に室内の換気を行う。
 - ・外食の際は各飲食店の感染予防対策に従う。合宿所での食事の際も少人数（1テーブル4人以下）での会食とする。
 - ・会議期間中のスポーツ大会（運動会）実施の可否は、最新の感染状況を踏まえて慎重に判断する。実施する場合、参加者同士の直接の接触を避けた競技とする。ボール等の道具を使用する場合は事前に入念な消毒を行い、参加者には競技の前後で手指の消毒、手洗いを必ず行ってもらおう。

マスクの着用

手洗い
手指の消毒

毎日の検温
体調報告